

第14回 **ガスで彩る楽しい料理**

親子クッキング
埼玉県
コンテスト

第12回 **ウィズガス**
みんなのガス
全国親子クッキング
コンテスト
炎の調理で五感を
研ぎ澄ます

「食育」の学習には学校と家庭の連携が効果的です

家族と一緒にメニューを考え、料理し、食べ、片付ける時間は授業では得られない子どもの成長の機会です。昨年度の全国応募総数は5万8,234組で応募の約9割が学校経由の申込でした。夏休みの課題に採用された先生方からは、『“家庭を巻き込んだ学習”の方針にピッタリと合った『家族と触れ合うきっかけになる』といった感想を頂いています。

期待できる「食育」の内容

- ▲ 料理の楽しさ、家族と一緒に食事する楽しさ
- ▲ 食事の大切さ（栄養バランス、朝食の大切さ）
- ▲ 自ら考え、進んで行動することの学び（生活力向上）
- ▲ 食材を通じた地元理解、我が家の味の伝承、食事のマナー

昨年の埼玉県大会・
地区大会の様子



主催：埼玉県ガス協会

後援：埼玉県、埼玉県教育委員会、関東経済産業局、関東農政局、「近いがうまい埼玉産」地産地消推進会議、埼玉りそな銀行、武蔵野銀行

（※全国大会後援予定：内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、全国小学校家庭科教育研究会）

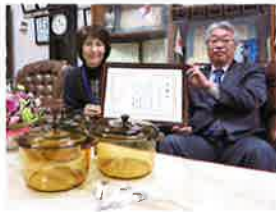
協賛：ノーリツ、リンナイ、パロマ

➡ 裏面に、この大会を評価して下さる方々の声を掲載しています。

埼玉県、昨年の学校賞受賞校の声

川口市立並木小学校

本校は、「食育」を教科の中で取り組んでいることが大きな特色です。家庭科や保健はもとより、社会や国語などの各教科で、いろいろな食に関する知識や食を選択する力を習得するよう、意識的に食に関する指導を行っています。また、「けんこう会議」では、「朝食の大切さを考える！」をテーマに発表や調理実習などの取組を行っています。さらに、地域の人材を活用した「板前給食」や、旬の食材・地産産物を使用した献立や郷土料理を給食メニューに取り入れるなど、学校と地域の絆を深める食育を推進しています。親子クッキングコンテスト地区大会出場者の結果は、給食室前に掲示したり、全校集会で紹介したりするなど、年間を通しての意識づけに活用しています。



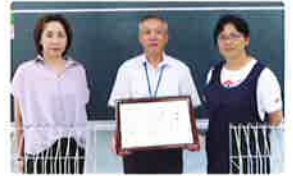
日高市立高麗川小学校

学校で学んだことを活かす為に、家庭で実践するようにいつも声をかけています。親子料理コンテストは宿題として、親子で食の大切さを感じてもらおうようにしました。栄養教諭による食育指導や給食委員による献立の放送、お弁当の日など様々な面から食育に取り組んでいます。



所沢市柳瀬小学校

コンテストを通じて、親子で楽しみながら、食育について学ぶことができました。学校賞を頂き、家庭科で使用する器具を色々購入することができ、子供たちも喜んでいました。ありがとうございました。



応募
特典

学校賞 ▶ 30組以上ご応募いただいた学校へご希望の調理器具などをプレゼントします。

参加賞 ▶ 応募者全員に図書カード(500円分)を進呈します。



埼玉県大会審査委員長の声



江上佳奈美 審査委員長 (江上料理学院副学院長)

いつまでも記憶に残る素晴らしい経験に
親子でクッキングコンテスト。ぜひ、トライしてみてください。共同で料理を作る作業は企業の「チームビルディング」という研修方法でもよく使われています。テーマに合わせ案を考え、それを形にする。共同作業なのでチームとしての協調性が大切。効率性も必要です。まさに社会に出たら必要なことを親子で実体験できるのでですね。

また食材に対する興味が湧いたり、普段の生活では見落としていたお互いの新しい一面を発見することも……そして、何よりも料理のあとに一緒に分かち合って食卓を囲めることが素晴らしい経験となるはず。おのずと、家族の会話もいつの間にか増えていきます。子供はいつか巣立っていきますが、記憶はいつまでも残るもの。ぜひ親子でのチャレンジ！お待ちしております。

昨年の全国大会審査委員の声

ガスエネルギー新聞2018年2月26日付けより転載



服部幸應 審査委員長 (学校法人服部学園理事長 服部米養専門学校校長 医学博士)

食の連携がしつげに通じる
今日は親子の皆さんにガスを使ったさまざまな調理法を披露していただきました。見事なチームワークでした。言葉を発しず、目配せや背中に触れるだけで意思疎通する親子もいました。調理を通じて培った連携により、今後、親子や兄弟姉妹の絆がさらに深まることが想像できてうれしく思いました。世界で一番調理のできない母親を育ててしまったのは日本だと思えます。核家族が8割を越え、かつて祖父母の役目だった食事時のしつげがおろそかになっています。食を通じた親子の連携は、

このしつげに通じます。今日腕を振るった親子はマナー教育がしっかりされてますから、今後皆さんのお手本になるでしょう。今日の11組はものすごい倍率を突破しての出場です。惜しくも全国大会に勝ち進めなかった方もチャンスは誰にでもあります。これからもぜひ挑戦して下さい。クッキングコンテストがずっとこれからも続くことを望みます。そのことによって全国津々浦々のご家庭や地域に、きっと良い影響を及ぼすはず。今日出場のお子さん達が成長し、素晴らしい料理を作る家庭を築かれることを願っています。頑張ってください。



曾我部多美 審査委員 (全国小学校家庭科教育研究会会長)

ガスの炎でわが家の味を
皆さんのレシピを事前に読んだところ、地域の特産物を使ってわが家ならではの味を出そうと意欲的なものばかりで、期待して審査に臨みました。実際の料理は予想をはるかに超えるおいしさで驚きました。どの組も地産地消を意識し、調味料まで研究して、わが家風の料理を追求されていることが、調理する姿や味付けからひしひしと伝わってきました。また、2段鍋を使ったり、食材を最後まで使い切る工夫にも感心しました。五感を使う料理や五味を味わう献立の工夫など、それぞれの親子が楽しみながら調理に取り

組む様子もしっかり伝わってきました。小学校では5年生になると家庭科が始まり、一番最初に学ぶのがガスの使い方です。今日どの組も目的に応じてガスを上手に使いこなしていました。土鍋を使ったりガスならではの調理法を組み合わせた、挑戦する親子が多く見られました。料理の味は炎が決め手です。どうぞこれからも目的に合わせて、ガス火を安全かつ上手にコントロールして、わが家ならではの味のレパートリーをたくさん増やして行って下さい。素晴らしい11組の皆さんに心から拍手を贈ります。

▶ 埼玉県ガス協会会員(20社)

入間ガス、角栄ガス、埼玉ガス、坂戸ガス、幸手都市ガス、松栄ガス、新日本ガス、西武ガス、大東ガス、秩父ガス、東京ガス、東彩ガス、日高都市ガス、武州ガス、本庄ガス、武蔵野ガス、鷲宮ガス、伊奈都市ガス、堀川産業、フジオックス